

## ドローンを用いた散布試験 (Vol. 7 令和6年6月)

果樹生産者の高齢化や担い手の不足により、「くだものづくり」に欠かせない「農薬散布」が困難になると予想されています。この問題に対応するため、様々な研究機関や農機具メーカー、農薬メーカーが連携して、マルチローター（通称、ドローン）を活用した農薬散布が、水稻や小麦などが先行して普及が進んでいます。

一方で、樹に高さがあり、立体的に枝が伸びる果樹栽培では、マルチローターでは均一な農薬散布が難しいことが分かってきました。そのような中、傾斜地や段々畑で栽培される「市田柿」は農薬散布が難しいこと、近年は低樹高化が進み散布した薬液が比較的、均一にかかりやすいことから、令和5年度から「かき」でのマルチローターによる防除試験に取り組んでいます。

マルチローターによる農薬散布は風が穏やかな午前6時から行い、農業農村支援センター、JAなどの指導機関からも多くの方々が視察に訪れました。水分が付着すると変色する「感水紙」を用いて農薬の付着量を調べるとともに、実際に殺菌剤を散布して病気の予防効果も確認します。

現状は、「かき」に使用できる登録農薬が少ないことが課題。農薬メーカーと連携しながら、農薬登録の取得についても検討を進めています。



ドローン散布の様子



感水紙による農薬付着量の調査